

MATSU DOING 2050

わたしがつくる！
まつどのみらい

[かわら版] #2



第2回まちづくりワークショップが 開催されました！

第2回目のワークショップが開催されました。「松戸駅周辺での過ごし方について考える・新しいライフスタイルについて考える」というテーマの元、活発な議論を行いました。

日時=2019年11月3日13時30分-18時00分

会場=松戸市衛生会館会議室

参加者=55名

秋田典子 | あきたのりこ
千葉大学大学院園芸学研究科准教授

清水陽子 | しみずようこ
科学と芸術の丘総合ディレクター

横張真 | よこはりまこと
東京大学大学院工学系研究科教授

宮城俊作 | みやぎしゅんさく
東京大学大学院工学系研究科教授

横張真氏による挨拶



はじめに横張真氏より挨拶がありました。最近香港へ行く機会があり、昨今の情勢について上の世代の方と話をした際、「一部行き過ぎた行動もあるが、若

者達は彼らなりに自分達のまちの未来を真剣に考えて行動している。大人はそれを邪魔してはいけない。」という言葉に感銘を受けた。まちはそうやってつくっていくものではないか、というエピソードをご紹介します。

秋田典子氏による レクチャー



次に千葉大学の秋田典子氏から「新しい働き方の実現、消費から時間と場所の共有へ」というテーマでレクチャーがありました。これまでは住む場所と働く場所が分断されており、その結果通勤ラッシュなど様々な問題が発生したが、これからの時代は暮らして仕事の近接性を重視する人が増え、一見オフィスだと思えない会社を作ったり、テレワークを導入して在宅勤務を可能にするなど「カイシャ」のハード面や働き方そのものに変化が起きています。まちづくりの成功事例として有名なブルックリンと松戸には河川のある地形やアーティストが移り住んでいることなどの共通点があり、「Local, Slow, Lifestyle」というテーマは松戸もその可能性を持っています。松戸市には緑豊かな公園や地域のお祭



[https://
www.facebook.com/
MATSUDOING2050/](https://www.facebook.com/MATSUDOING2050/)



り、リノベーションをした個人店などたくさん資源がある。隣接都市との違いを考えつつ松戸でどんな物語をつくれるかという視点を頂きました。

清水陽子氏による レクチャー



続いて科学と芸術の丘総合ディレクターの清水陽子氏から自身の活動と国際フェスティバル「科学と芸術の丘」についてレクチャーを頂きました。清水氏は京都で生まれ、ニューヨーク育ちの科学と芸術を融合する現代芸術家です。ブルックリンではアーティストが移り住んで活動したことでその土地の地価が上がり、若手アーティストによってまちづくりができる可能性のある場所を関東で探したところ、松戸市に行き着きました。現在はバイオテクノロジーを中心に先端科学を用いたデザインラボを北小金で運営されており、総合ディレクターを務める「科学と芸術の丘」には多くのアーティストが関わり、若手クリエイティブの人口がどんどん増えています。戸定邸など会場として活かせる場所もあり、松戸には多くの可能性があることをご紹介します。

続いて第1回WSで作成した各チームのテーマを元に議論を進めました。

1. グループワーク[1]
2. ディスカッション
3. グループワーク[2]



1班 | みんながつながり主役になれるまち

安心してまち歩きできること。駅から相模台へ繋がる道を解決しまち全体がつながって歩ける。川沿いで静かな図書館と性格の違う活動的な場所としての丘上の図書館。線路で分断されている東西をつなげ、松戸の立地・地形を体験できる場所へ。時間に応じた空間を大切にしたい。

2班 | 人の笑顔が見えるまち

回遊性を作る。(1)中央図書館・市民劇場：シンボルロードを魅力的に(2)江戸川：サイクルイベントなど(3)松戸軸：風景を活かす(4)戸定邸・千葉大：東西をつなぐ要(5)中央公園：市民が入りやすい場へ。時間を過ごす場所・施設を分散することで回遊性を生む。歴史あるエリアの空き家活用。

3班 | 帰るとホッとするまち まつど

人が帰ってくるまち。人と緑の動線を中心に中央公園までの道を広げ緑を増やし人と情報が集まる拠点にしたい。プレーレが課題。公園はマルシェや屋外コンサートなど自分たちが表現ができる場、災害時の避難場所として活用。子供達が遊べる水場やお年寄りの歩行訓

練ができる場所。

4班 | 「みこし」がっつなげるあかるいまつど

神輿、見越す。2時間が美味しい松戸。2時間ずつ楽しめる拠点を複数整備する。相模台エリア、戸定が丘エリア、坂川・江戸川エリアにそれぞれ文化施設や公園を分散させまちを回遊する。川沿いや千葉大までの道を歩いて楽しめるまちに。東と西、坂川と江戸川、松戸駅と江戸川つなぎ寄り道できる。

5班 | 文化でつながるまつど、点から線へ、そして面へ ～ひと・まち・こころのネットワーク～

市民の文化活動をつなげる。現代美術と一般の作品がつながる。中央公園へ施設を統合しシンボル・ランドマークをつくる。駅の周りを賑やかにするためにブリッジで東西を繋ぎ、江戸川までのシンボルロードをお祭りなどの文化でつなぐ。

6班 | 求めるものがそろうまち松戸

30年後を考えると今ある不変のものを活かす。駅から川や森が近い立地を活かす。坂川を水質改善し歩いて楽しい川にする。江戸川は川遊びのアクティビティをより推進する。中央公園に図書館と市民会館を集約して新たな公園を作る。松戸にアリーナをつくり市民が愛するスポーツチームを作りたい。

7班 | 誰もが余白に描きこめるまち

中央公園を中心に議論。生涯学習施設を整備したい。30年後は時間を使える場所が必要。「みんなの物語がうまれる場所」と呼ぶ。相模台から江戸川への景観を確保。相模台から戸定公園をグリーンネックレスで繋ぐ。江戸川をスポーツで人が集まる場所にし、旧水戸街道と戸

定で歴史と緑が交わる。

8班 | 極上のやど MATSUDO

安心して歩ける道。坂川を親水公園に。歩行者天国、オープンスペース化。観光客と住んでいる人が寛ぐ、余暇を楽しむ。駅から戸定邸までの道を小江戸体験ロードとして訪日客に楽しんでもらう。まちの駅。働く人、学ぶ人にとって良いまち。松戸にしかない図書館。市役所跡地に松戸ヒルズ。企業誘致しビジネスの拠点に。



清水氏コメント

東西に移動しにくい、文化施設が少ない、まちを回遊しづらいなどが課題と感じていたことがまちに住んでいる人も同じように感じていて、リアルな声が聞けた。今後の案が楽しみ。

秋田氏コメント

普段の自分の思いを皆さんが代弁してくれた。これからの松戸は1人1人が主役になれる場所であり、自分の物語が生まれる場所にしたいという思いが伝わった。

横張氏コメント

時間をかけて熟成されたもの、これから時間をかけて育てて行くものを大事にしたい。時間をかけるには、コストがかかる。これを社会的にみんなはどう負担するか。そうした面も含めた議論ができるとよい。

宮城氏コメント

今回はどのようなまちを目指すか「コンセプト」を考え、今回はその「戦略」を考えた。次回は戦略として示されたものをどう実現するかという「戦術」を考える。具体的にどうしたら良いか次回までに考えてみて欲しい。

次回は11月23日(土)
13:30-17:30
松戸商工会議所で
開催します。

